

事例から考える、
発達凹凸と
不登校・行き渋り

第20回発達を見守る会

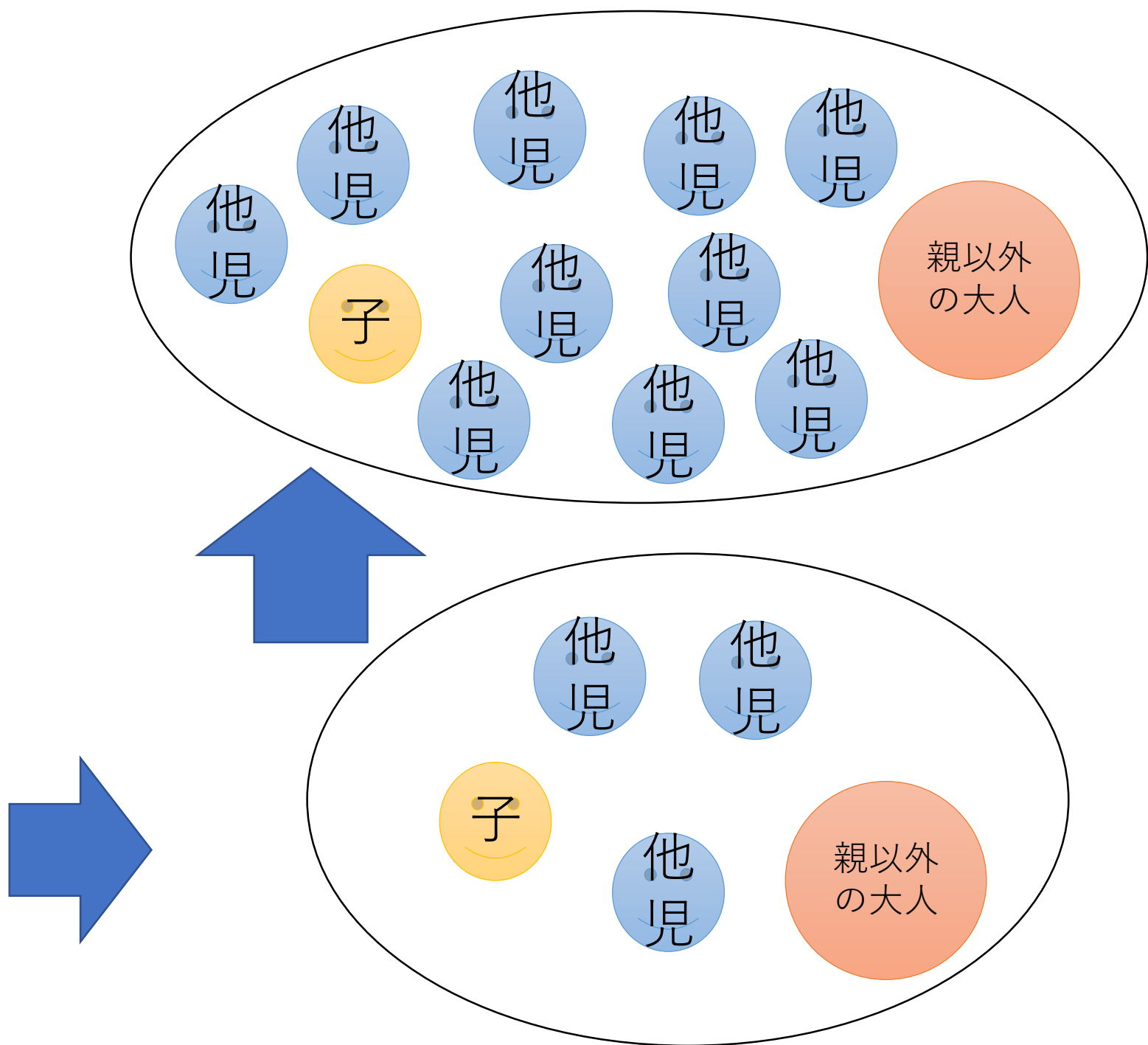
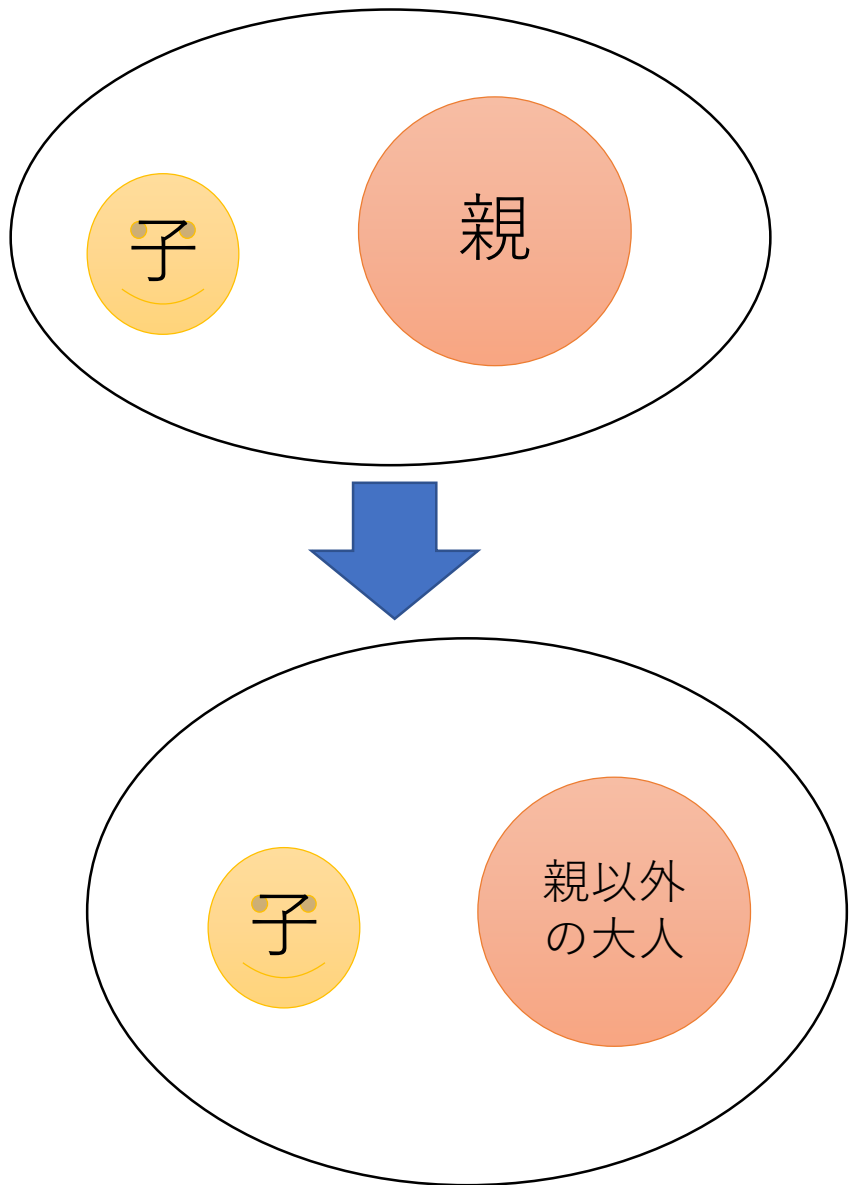
2019年2月10日

医師 遠藤尚宏

知っておくと便利なくつつかの軸

- 集団への移行（関係性の広がり）
- Piagetなどの発達理論に基づく成長
- 社会性の発達
- 心理的なつながりの発達的变化
- 不登校・ひきこもりの段階
- 不登校・ひきこもりにおける親子の関係性

集団への移行



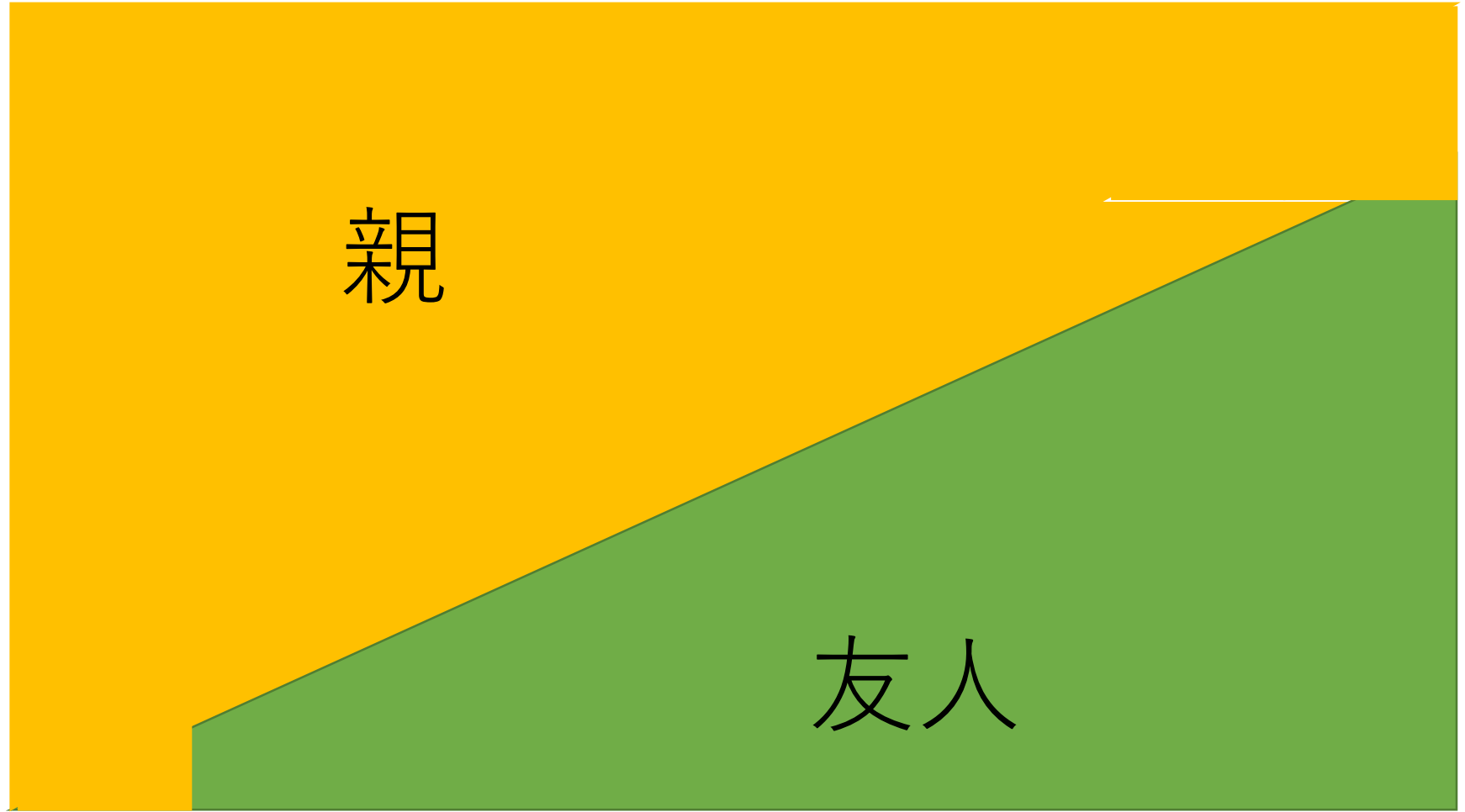
心理的つながりの発達的变化

乳児期

幼児期

学童期

思春期



子どもの発達：社会性（対人面）

6か月

- ・（1歳半にかけて）他者の表情を意味づけする力が育ってくる（social referencing） 例：段差

1歳

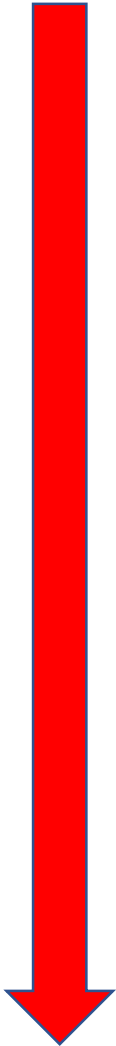
- ・1歳半には愛着による記憶によって自分自身を安心させられる

1歳半

- ・他者の注意を自分の興味の対象物へ向けようとする（joint attention）

2歳

- ・他の子と同じ場所で遊べるようになる
例：砂場で各々砂遊びをする



子どもの発達：社会性（対人面）

- ・ 2、3歳頃から「いい事」、「悪い事」がわかるが、あくまで大人の承認を得たいため。気持ちや考えに一貫性はない。
- ・ 4歳あたりには相手が自分と違う考えを持っていることに気付く (theory of mind)。順番を守ることの大切さがわかるが、不公平だと文句を言う
- ・ 4歳頃からは他の子と協力して遊べるようになる。
例：砂山を一緒に作る。
- ・ 5歳になっても、他の子の視点でものを考えることは多くない

子どもの発達：社会性（対人面）

- 6～8歳 時間軸を意識しづらい
= 後先考えない行動様式
 - 9歳～ 大人のミニチュアのような社会を
形成しはじめる
= 「暗黙の了解」が求められる
- 状況を読めない子、視覚的情報がわかりづらい子、他者の思考を読めない子はつらい思いをする

Piagetが提唱する発達段階

感覚運動期
(0～2歳) 反応に興味をひかれ、また繰り返す (循環反応)
見えなくなってもまだ存在しているとわかる (対象の永続性)
真似をする (模倣行動)

前操作期
(2～7歳) 主観的 (自己中心性)、過集中 (中心性)
後半から理性的な考え方を始める (直観的思考期)
『「今」しかない』

具体的操作期
(7～11歳) 論理的思考の開始
具体的 (視覚的) な情報を要する

形式的操作期
(11歳～) 抽象的な思考の獲得
(答えがでないことを認められるようになってくる)

思春期の心理発達過程

齋藤万比古を改変

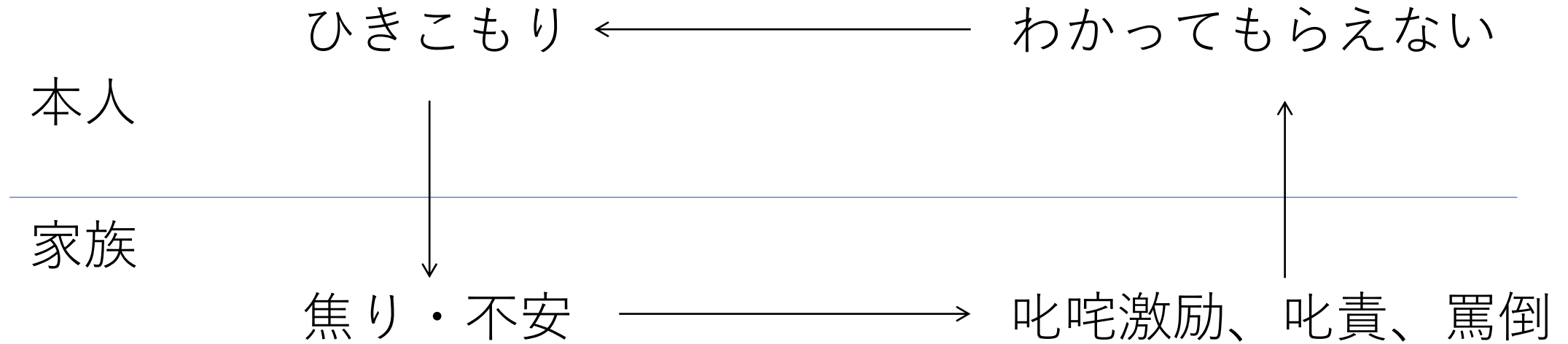


不登校の状態評価

小児心身医学会ガイドライン集 改訂第2版より

状態0	登校できる	外出できる	ほぼ平常に登校している
状態1			遅刻・欠席がしばしばある 保健室通いが多い
状態2			保健室・相談室登校 半分以上欠席
状態3	登校できない	外出できない	学校以外の施設への定期的参加 ができています
状態4			比較的気軽に外出できる
状態5	登校できない	外出できない	家庭内では安定しているが、外 出は難しい
状態6			部屋に閉じこもり、家族ともほ とんど顔を合わせない

不登校・ひきこもりにおける 悪循環を起こす親子の関係性 その1

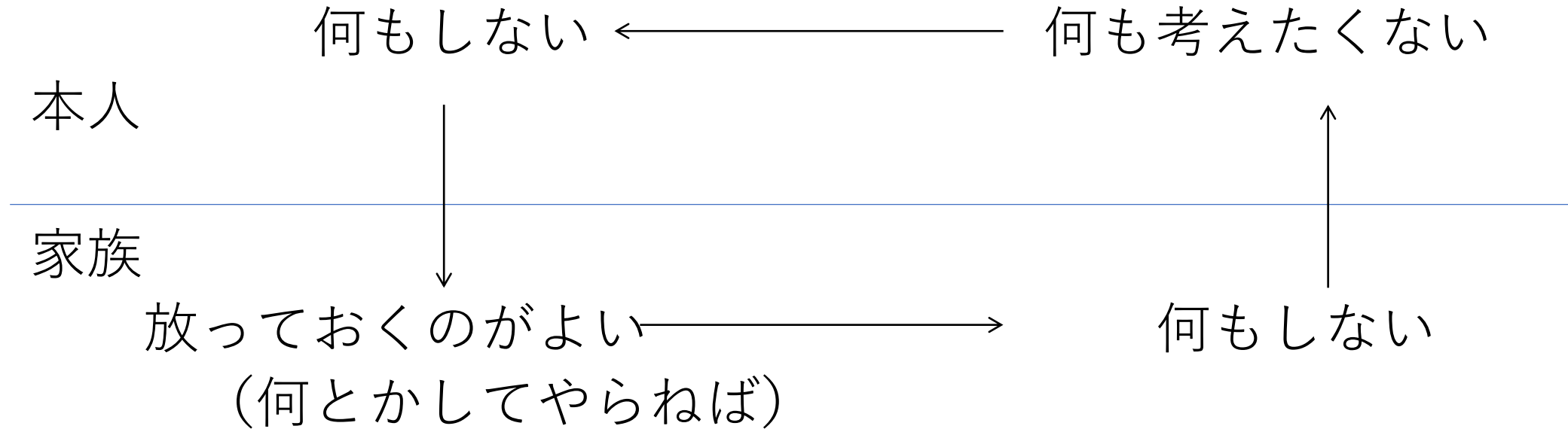


緊張関係を緩める

話し合える環境を取り戻す

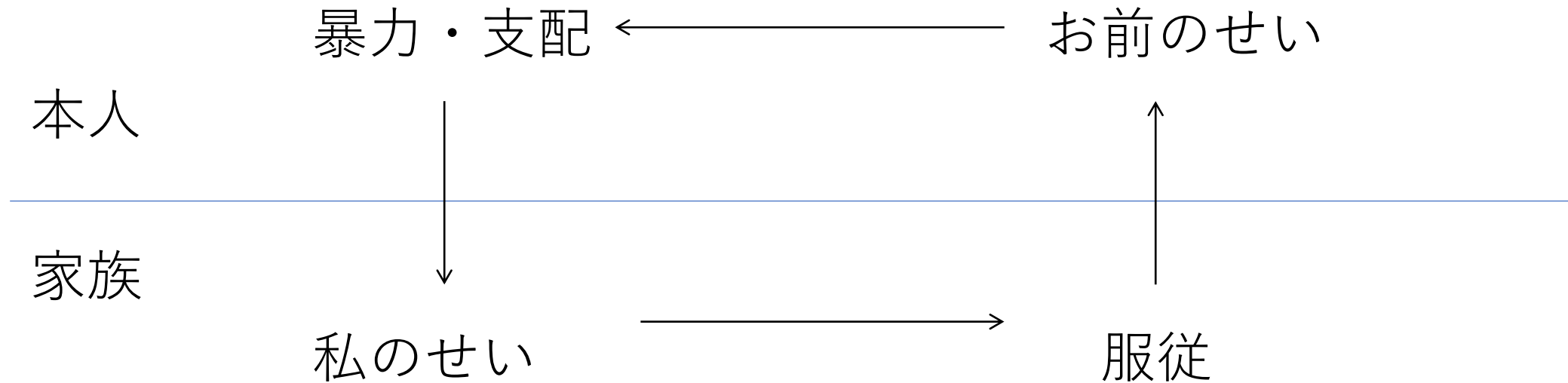
全面的な受容・肯定は新たな悪循環につながりうる

不登校・ひきこもりにおける 悪循環を起こす親子の関係性 その2



「今後の人生について考えさせる」ために必要な対処を探り出す
ただし、説得ではなく、納得が必要

不登校・ひきこもりにおける 悪循環を起こす親子の関係性 その3



召使をやめる決心をしてもらう

配偶者や第三者を含めた暴力への対処を探り出す

行き渋りの一因となりうる発達の凹凸

- 自閉症スペクトラム (ASD)
- 注意欠陥多動性障害 (ADHD)
- 学習障害 (LD)
- 愛着障害

自閉症スペクトラムの特性

① 社会性の問題

人との距離感の問題

言語発達の遅れ

会話・説明が苦手

② 考え方の偏り 感じ方の偏り

興味・関心の偏り

ネガティブ記憶が強く残る

概念理解の難しさ

感覚過敏（特に聴覚）

③ 上記の特性による、日常生活の困難がある

注意欠陥多動性障害 (ADHD) の特性

1

じっとしてられない
がまんでできない

2

注意散漫
集中が偏る

3

上記のため、社会生活に支障をきたしている

学習障害（LD）の医学的定義（DSM-5）

- 読みの困難
- 文章理解の困難
- 書字の困難
- 算数（計算）の困難

知的障害、視覚障害、聴覚障害、心理社会的困難、教育的指導の不十分さでは説明できない。

愛着障害

不適切な養育、ネグレクト、心理的・身体的虐待によって
おこる

情動の不安定さ、癒されない
大人の表情を過度にみる、異常な警戒心、年齢不相応に大
人っぽい/子どもっぽい
多動、攻撃性、スイッチが入ったような器物破損・暴力
常同行為
抑うつ、不眠、自傷

障害児は虐待を受ける率が4倍以上、特に自閉症スペクト
ラム、行動上の問題をもつ児で最も高い。

対応の原則 1 基本的に通えている場合

- 園や学校を好きにさせる、嫌じゃなくすることがゴールとは限らない
 - = 不快な気持ちにも耐えられる
- 行きたくない気持ちは表出させ、否定しない
- 通えていること自体を評価
- 楽しい事やすでにできていることを強調。できれば増やす

対応の原則 2 通えないことがある場合

- 「現状維持でも前に進んでいる」
- スモールステップ
- 予告は大切＝だまし討ちはしない！
- 子どもによってはルール（枠組み）作りが必要